

第3回青森市統合新病院整備場所等検討会議 議事要旨

- 日時 令和6年1月26日（金）17時30分～18時50分
- 場所 リンクステーションホール青森（青森市文化会館）4階 中会議室
- 出席構成員（10名）
- 青森公立大学経営経済学部 足達准教授、青森市浪岡商工会 一戸会長、
青森商工会議所 葛西専務理事、青森県建築士会 工藤副会長、
青森市農業委員会 福士会長、青森県立保健大学健康科学部 三好准教授、
青森県不動産鑑定士協会 最上監事、青森地域広域事務組合 佐藤消防長、
青森市町会連合会 佐々木会長、青森市病院運営審議会 原子前委員
- 欠席構成員（2名）
- 国立病院機構本部DMAT事務局 近藤次長、青森市医師会 北畠会長
※近藤次長、北畠会長からは、個別に意見聴取を行いました。

○案件

- (1) 第2回検討会議の議事要旨について
- (2) 統合新病院の整備に望ましい場所について
- (3) 跡地利用の方向性について

(1) 第2回検討会議の議事要旨について

- ・意見なし

(2) 統合新病院の整備に望ましい場所について

【各テーマにおける検討箇所への意見】

(足達座長)

- ・資料3はこれまでの意見をテーマごとに整理しているが、空欄の箇所もあるため、この空欄を埋めていくよう重点的に御意見をいただきたい。

(工藤副会長)

- ・旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地については、前回会議の資料2 (p. 22) で示された「病院への入口を2カ所に分け、既存道路を拡幅する」ことを考えても、現状と同じアクセスであると思う。

- ・青森県総合運動公園については、資料で示された青森市外からの通院状況及び到達時間を考えても東部地区の方からは非常に遠くなる。また、道路に関しても踏切があるので非常に渋滞する場所であり、道路拡幅に当たっても私有地の用地取得が必要となるので整備に時間を要するのではないかと考える。
- ・外環状線周辺エリアについては、高速道路と環状線があるので交通アクセスとしては良いと思う。
- ・まちづくりの観点からみると、青い森セントラルパーク以外の3か所は中心市街地から離れているので中心性を考えると整備場所としては劣るのではないかと考える。

(三好准教授)

- ・旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地については、現在の県立中央病院に近いバス路線の運行便が確立されており、また前回会議の資料2 (p. 19) では統合新病院整備による市営バスの他路線への影響がないというデータが示されている。しかしながら、当該エリアは市の中心部から東側に寄っており、移動距離や時間において公平性が確保されているとは言えないのではないかと考える。
- ・青森県総合運動公園については、市の中心部から西側に寄っており、また、鉄道線路も渋滞の要因となっている。加えて、青森市立地適正化計画における地区拠点区域でないことから、青森市が目指す都市計画に合致していないのではないかと考える。
- ・外環状線周辺エリアについては、前回会議の資料2 (p. 19) では統合新病院整備による市営バスの他路線への影響が他の3か所に比べかなり減便するというデータが示された。加えて、当該エリアは朝の渋滞が懸念されるほか、このエリアの中で最も利便性が高い青森中央インターチェンジ付近においても、圏域人口や自動車到達圏人口など、すべての数値が青い森セントラルパークに比べ劣っている。

(佐々木会長)

- ・病院整備に付随して道路整備を行うことになると思うので、まちづくりの観点からみると、いろいろな整備が進んでいる青い森セントラルパークが良いと思う。
- ・県立青森商業高校及び県立中央病院敷地については、いろいろな観点がセントラルパークに比べ少し劣ると思う。
- ・青森県総合運動公園については、遺跡の関係のほか、交通アクセスに関しても、浪館通り自体がそれほど良い交通状況ではなく、国道7号青森環状道路（外環状）もそれなりに渋滞が発生している。

(足達座長)

- ・旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地、青森県総合運動公園、外環状線周辺エリアの3か所については、場所が片寄っているので、県全体からみれば、近くなる人もいれば、遠くなる人もいるということが共通点として挙げられると思う。

(葛西専務理事)

- ・まちづくりの観点からみると、これから青森市も県全体も人口減少が進む中で、都市機能の分散化を引き起こすようなことは、都市全体の活力の空洞化を生むリスクがあるため、青森県総合運動公園と外環状線周辺エリアは望ましくないと考える。また、青森市都市計画マスタープランの考え方とも整合性が取れないと考える。
- ・旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地については、都市機能を誘導する生活拠点区域であることから、新病院の整備は可能な場所であると考えます。

(福士会長)

- ・能登半島地震の映像を見て大きなショックを受けた。そのような中、地震に強い場所はどこだろうと考えており、青森県総合運動公園は三内丸山遺跡が隣接しているので整備場所に向かないと思っていたが、昔から安全安心な場所だから遺跡があるのではないかという話を耳にした。検討対象地3か所の中では青森県総合運動公園が一番安心なのではないかと感じている。
- ・旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地は津波もあるが、能登半島地震をみると、地盤が隆起したという話もあり、海の近くは無理だろうと思っている。
- ・青い森セントラルパークは周辺が住宅地であり、能登半島地震で倒壊した住宅が道路を塞いだことを考えると、巨大な地震に備え道路拡幅といったさまざまな検討が必要ではないかと感じている。

(足達座長)

- ・今回の能登半島地震では道路が寸断されたということが非常に印象的であり、車は使えなくても、少なくとも歩いてはいけるかもしれないということが重要なことではないかと感じた。
- ・病院を必要とする方や被災者が歩いて行けるところにあることも大事であるが、病院を維持するスタッフが歩いて行きやすいところにある、なるべく多くの人たちにとって近くにあるということが重要なのではないか。そう考えると、あまり端にあると、単純に考えて少し不利なのではないかと考えている。

(佐藤消防長)

- ・外環状線周辺エリアは、青森市の郊外に位置しているため救急搬送にとっては若干時間を要すると感じているが、その周辺道路は比較的整備されており、東西南北からのアクセスは可能であると考えている。

(工藤副会長)

- ・老朽化した家屋が多い地域は家屋倒壊により道路を塞ぐ可能性がある。一方、新しい家屋は耐震性が高く、壊れたとしても道路を塞ぐような壊れ方は可能性として低いと考える。住宅地であったとしても、なるべく新しい家屋がある辺り、地震の際に道路に影響を与えない地域がよいのではないかと考える。

(最上監事)

- ・救急搬送という観点から考えれば、県立中央病院があることにより大きな整備を必要とせず主要幹線道路の国道4号から至近距離である、旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が一番良いのではないかと考える。
- ・青森県総合運動公園については、通院アクセスと重なるかもしれないが、浪館通り側からのアクセスを考えると、道路幅員は狭く、バス停留所も確保されていない。普段から混雑するところであり、救急搬送に際しても厳しいものがあるのではないかと考える。
- ・青い森セントラルパークについては、これまでの検討会議でも話題に挙げたが、幹線道路である観光通りと荒川通りからのアクセスをどのように上手くつなげるかということが問題になるのではないかと考える。
- ・外環状線周辺エリアについては、新病院をどこに整備するかにもよるが、国道7号青森環状道路（外環状線）からのアクセスを考えれば、救急搬送の観点から問題になることはないかと考える。

■個別意見聴取

(近藤次長)

- ・1分1秒を争う重症患者の救命を第一に病院の整備場所を考えるべき。この観点からみると、青い森セントラルパークは救急車到達圏人口が一番多く、より多くの重症患者を救えるということになる。
- ・建て増しの病院はライフラインが複雑化する。作るのであれば、建て増ししない方が災害に強い建物になる。旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地を整備場所とする場合は、その点に留意していただきたい。

- ・青森県総合運動公園は入内断層が近隣にあることが分かっている。建物を免震や制振で建てられるのであれば地震はあまり問題とならないが、さすがに断層の直上は望ましくない。
- ・青い森セントラルパークと外環状線周辺エリアは洪水被害が想定されているが、洪水であれば、仮に自院が被災しても、自院以外に重症患者がたくさん出るとは少なく、他院が複数被災することも非常に少ない。

(2) 統合新病院の整備に望ましい場所について（構成員意見）

（足達座長）

- ・これまでの意見を踏まえて、どのような形でも結構であるので、統合新病院の整備に望ましい場所について、順番に皆様の御意見をお聞かせいただきたい。

（一戸会長）

- ・海の近くにあると、津波が来たとしても、その後片付ければ海を交通網として使えるという利便性があると考え。また、現在の県立中央病院を基点として、さまざまな形の交通網ができていく。
- ・青い森セントラルパークも良いとは思いますが、どちらかというと旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が良いと感じる。

（葛西専務理事）

- ・総合的なまちづくりの観点から青い森セントラルパークへの整備が望ましいと考える。
- ・都市計画マスタープランとの整合性を図っていくことが必要。多くの住民が利用する施設になることから、基本的には中心部にあると利便性が高く、コンパクトなまちづくりの形成にも資する。前回会議で示された、救急車到達圏人口や圏域人口、自動車到達圏人口といったデータからもそのことが言える。
- ・敷地が狭隘ではないかという懸念もあるが、前回会議でも示されたとおり、全国の病院の事例を踏まえると、セントラルパークよりも敷地が狭くても、新病院と同程度の病床数をしっかり確保している病院は現実にあることから、それはクリアできると考える。
- ・外環状線周辺エリアを除く3か所の検討対象地の無条件想定面積（前回会議資料 2p. 6）をみても、セントラルパークは自由に確実に使える面積が一番多く、その点においても優位性がある。
- ・課題としては、どこに整備する場合であっても、議論されているように、災害リスクの回避対策や災害があった場合の対策、また特に冬場の交通渋滞の回避対策といった利便性向上対策はしっかりやっていく必要がある。

- ・また、青い森鉄道の新しい駅の設置によって、広域からのアクセス改善が見込まれることから、利用者の利便性向上という観点からも、是非早期に取り組んでいただきたい。

(工藤副会長)

- ・青森市の中心にあり、これからのコンパクトな青森市を目指すに当たって核となる施設になることから、議論されている候補地の中では、青い森セントラルパークがよいと思う。
- ・新駅の設置と、青森市の北側からセントラルパークに入る動線について要望したい。具体的には、八甲田大橋と中央大橋の間を高架にし、その高架部分に新駅を設置する。病院に関しては1階がピロティ、2階がエントランスとする。そうすれば、浸水対策にもつながると思う。
できないという問題はあるが、線路を高架にし、その下を車が通れるようになれば、冬場でも橋を通らずとも中心市街地から病院にアクセスできる。こういう動線をぜひ作っていただければ、なお良いのではと考えている。

(福士会長)

- ・今回の能登半島地震がなければ100点満点でセントラルパークに手を挙げたいと思っていたが、災害時のことを考えると、青森県総合運動公園が良いと思っていた。
- ・ただ、皆さんの意見を聞いた中で相対的に考えると、青い森セントラルパークが一番適していると思っている。第一に青い森セントラルパーク、第二には青森県総合運動公園ということをお願いしたい。

(三好准教授)

- ・公共交通を利用した通院アクセスについて、できる限り現行の市営バスを有効活用し、他路線に影響を与えないという意味での効率性という観点から、旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が整備場所として望ましいと思ってきた。
- ・一方、移動距離や時間の公平性といった観点から、公共交通としては、バスに加えて鉄道があることから、統合新病院の最寄り駅として新駅の設置が実現すれば、青い森セントラルパークがふさわしいのではないかと考える。

(最上監事)

- ・外環状線周辺エリアについては、この会議を通じて、用地取得までの期間と費用のハードルが高いことが分かったので除外と考える。
- ・青森県総合運動公園については、三内丸山遺跡のリスクが大きく、ここもあまり適切ではないと考える。

- ・旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地については、敷地が十分に確保できるということ。次の建て替えを考えるに当たっても、病院の敷地は広い方が良いと思う。また、現在の青森市内の市街地のバランスを考えた際、西部や南部は人々の集積がみられるが、東部は徐々に繁華性が落ち込んできており、さらに県立中央病院が移転すると、東部の落ち込み方は甚大と考えている。加えて、救急搬送の際に、主要幹線道路である国道4号からの距離が短いということ、今現在、実際に救急搬送も行われているという安心感があるということから、旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が一番だと考えていた。
- ・ただ、この会議を通じて、津波の問題が、当初考えていたものよりもだいぶ深刻だということが分かった。この津波の問題がクリアできるのであれば旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が一番良いと思う。どうしても津波の問題が大きいということであれば、青い森セントラルパークになると思う。
- ・青い森セントラルパークになった場合、まちづくりの観点から考えると、今のままで、新駅もない、北側からのアクセスもできない状態で、線路の南側エリアにいろいろな施設が集中し、人がそこにばかり集まる状況に拍車をかけるだけになってしまう。やはり北側とのアクセスを考えることが絶対大事な条件になってくるのではないかと思う。新駅を設置することと、北側から自動車や歩行者がアクセスできるような方策があれば南北の流動性が出てくるので、まちづくりの観点からそれが一番良いのかなと思う。

(佐藤消防長)

- ・今回の検討対象に加えた外環状線周辺エリアを含めた4つの検討箇所について、それぞれメリット・デメリットがあり、まちづくりや救急搬送といった全てについて良好とされる候補地はないと感じている。
- ・その中で、それぞれ課題はあるものの、総合的なことで考えれば、青い森セントラルパークが一番望ましいと考える。
- ・ただ、利便性の向上につながる新駅、青い森鉄道をまたぐ自由通路、アクセス道路のさらなる整備などを含め、統合新病院として求められるさまざまな環境整備に努めていくことが必須であると感じている。

(佐々木会長)

- ・渋滞や除雪といった道路関係の課題や津波や洪水といった災害に対して最大値で考え、それをある程度補完できる対応や対策、またコンパクトシティということを踏まえれば、青い森セントラルパークが適地だと思う。

(原子前委員)

- ・旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地が整備に望ましい場所として良いと思う。
- ・理由は3つあり、1つ目は市営バスの利便性が良いこと。今後も安定した路線と便数が期待できる。2つ目は救急搬送の面で実績があり信頼性と安心感があること。災害の面でも適切な対応策を講じることでリスクを軽減できるのではないかと考える。3つ目は周辺の自然の風景が療養するための環境に適していること。

(足達座長)

- ・最後に一構成員として考えを述べたいと思う。
4つの検討箇所は全て一長一短があり、強いて挙げればという前置きはつくが、青い森セントラルパークが最も望ましい場所だと考える。
- ・理由は3つあり、1つ目は青森市の真ん中にあるということ。ここは圏域人口が一番多いというデータが示されている。つまり病院を中心として一定の範囲内に住んでいる人数が一番多いということであり、より多くの人が行きやすいということを意味する。
- ・2つ目は、青森市の都市計画マスタープランに沿っているということ。このプランは、今後のまちの姿を定めており、市民・専門家・行政が協力して作り上げたもの。それに沿わない、関係ないところに作ったとしたら、このマスタープランは何だったのか、行き当たりばったりのまちづくりをしていることになりはしないかと考える。この観点からみると、青い森セントラルパークは都市機能誘導区域に入っている。また、旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地も生活拠点区域に入っており、ここも良いと思う。
- ・3つ目は、公共交通に関する可能性の非常に高い、秘めたところだということ。都市計画マスタープランの考え方に沿って、都市機能誘導区域や生活拠点区域といった各拠点の形成を進めるほか、これらの拠点間を公共交通で結びネットワークを作る必要がある。この場所は青い森鉄道がすぐそばを通っており、新駅と周辺からアクセスしやすい跨線橋のような周辺整備があつての話になるが、そのような考え方にも合致している。また、高齢化が進むと、病院を利用する人もいつまでも車ばかりに頼ることができなくなるのではないかと。そういう観点からみても、青い森セントラルパークは非常に可能性を秘めた場所であると思っている。

■個別意見聴取

(近藤次長)

- ・地震の発生が切迫している状況において、現在の両病院が免震構造を採用されていない老朽化した病院であることを考えると、候補地が複数あるにもかかわらず、新たな用地取得に着手しむやみに工期を伸ばすことは避けた方がよい。

- ・また、津波は広範囲での被災が想定され、多方面からの患者を受け入れなくてはならない。災害拠点病院としての機能を維持するためにも、津波が想定されるエリアは避けた方がよい。
- ・残る青森県総合運動公園と青い森セントラルパークを比べたとき、青い森セントラルパークがより多くの重症患者を救うことができるのではないかと考える。
- ・このエリアは洪水被害が想定されているが、近年の状況をみると、どこでも浸水被害は起こりうる状態であり、ハザードマップを外れていれば良いというわけではない。その点は、土地の嵩上げなどによりライフラインに関連する施設・設備を浸水から防ぐことや、会議で例示された救急車両を導入するなど、いろいろなリスクに対し対策を講じることでコントロール可能である。
また、災害拠点病院の整備の考え方としては、そのような考え方ができていれば問題ない。
- ・以上のことから、この4つの検討箇所の中では青い森セントラルパークがベターだと考える。

(北嶋会長)

- ・急病センターを担当する医師の高齢化や参加する医師も減ってきているため、早期に新病院と連携した急病センターを作り、新しい先生方と市医師会とが協力しながら一次救急を受け入れる体制を構築したいと考えており、工期延長のおそれがある場所は避けた方がよいと思う。
- ・また、急病センターを利用する視点で考えると、中心部にあった方が、東西南北の住民、片寄ることなく利用することができると思う。
- ・これらのことから、セントラルパークが良いと思っていたが、敷地が狭くなってしまったのが引っかかっている。新病院の機能として研究施設や研修施設も必要になるので、敷地は広いに越したことはない。
- ・そう考えると、旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地になると思うが、今回の能登半島地震の津波を考えると、第一に津波の被災エリアは避けるべきだと考えている。
- ・結果的に、青い森セントラルパークになると考えるが、交通アクセスや除雪は十分に対策をする必要があると考える。

(3) 跡地利用の方向性について

(足達座長)

- ・現在の青森市民病院と県立中央病院が跡地になればという前提ではあるが、跡地利用の方向性について、まちづくりの視点から御意見を頂戴したい。

(葛西専務理事)

- ・地域経済の活性化やまちづくりの観点から申し上げると、青森市民病院も県立中央病院も市の立地適正化計画の中で地区拠点区域にあることから、跡地になるような場合には、その活用についてもそれに沿った都市機能が集積されるように検討するべきだと考える。
- ・検討方法についても、資料が示すとおり、民間のアイデアや公共での利活用を広く募集して検討していけば良いのではないかと考える。
- ・特に県立中央病院は造道周辺地区の中心的な都市機能であることから、周辺住民が不安を抱かないように、官民が連携して都市機能の誘導に取り組んでいく必要があると考える。
- ・例えば、総合病院がなくなった場合の代替として、民間が医療モールを作りそこに小さな病院の集積を図る、あるいは東部地区の市民センターが老朽化していることから、公共施設の移転によってこの地でコミュニティ機能の集積を図るなどいろいろなアイデアがあると思う。いろいろなアイデアをどんどん持ち寄って、このエリアが衰退しないよう生活拠点区域として住民が幸せになるようにやっていく必要がある。
- ・市街地の東部エリアに広大な敷地ができることから、地域住民の意見を聞きながら、かつ民間の力を活用しながら活性化を図っていけば良いのではないかと考える。

(最上監事)

- ・商業施設の誘致や医療モールというのは面白いと思う。
- ・単に宅地分譲して、いつの間にか住宅地になってしまっているということは避けるべき。

(原子前委員)

- ・子育て施設、福祉施設、防災関連の施設など、県や市の計画や考え方に沿って進めていくのがよいと考える。

(工藤副会長)

- ・病院を建てる場所が決まって県立中央病院と青森市民病院がなくなるとしても、今後、おそらく10年、15年掛かるので、10年先を見据えた計画を立てて協議する必要があると思う。
- ・県立中央病院は、救命救急センターが築12年、MRI棟が築10年で、まだまだ使える建物であることから、開業したい若い先生に場所を提供するのも一つのアイデアだと思う。

- ・青森市の街に若者がいないことから、青森市民病院については、例えば大学のサテライトを作る、例えば青森市には理学系の大学がないことから公立大学の理学系の学部を作るといったことが考えられる。そういう意味では、地元に残って、地元就職して、地元の力になるような若い人を育成するような施設ができれば良いのかなと思う。

(一戸会長)

- ・新しく統合病院を作るにしても、跡地利用を考えるにしても、新しい発想を持ちつつ県と市が一体となって進めることは非常に素晴らしいと思う。
- ・プロジェクトを進めるに当たっては、地元の人たちが進めるよりも、首都圏から青森県に関係のある人を連れてきて、リーダー性を発揮して進めてもらうのが早道だと思う。また、新たに委員会を作って進めるのも良いと思う。

(福士会長)

- ・跡地利用は県・市それぞれで決めていくことになると思うが、いずれにしても住んでいる人は青森市民であるので、青森市民の声を聞くことが一番大事。
- ・新しく建てる病院と並行して、時間をたっぷり掛けて跡地利用を考えた方が良いものができると思う。

(足達座長)

- ・皆さんの御意見をお聞きすると、両病院とも青森市全体に関わる重要な場所であるので、青森市全体に関わる設備や機能が重要であると思う。
- ・時間もかなり掛かるということになると、将来の世代に関係してくることになる。方向性を決めるに当たっては、都市計画や地区の特性を踏まえながら、市民の参加、特にこれからの市民がどのように考えるのかということをも反映できるかたちで進めていけば良いと感じた。